

# 小学校第3学年 国語科学習指導案

学習指導者 高松市立木太北部小学校 向山 由季子

1 単元名 「想ぞうしたことをつたえ合おう モチモチの木(物語) -登場人物の複雑な思いを語り合おう-

2 単元計画(総時数 時間【本時8/9】)

- 豆太の気持ちを想像するための準備をしよう。(3時間)
- 豆太の気持ちやじさまとの関係を読んで想像しよう。(5時間)
- モチモチの木とは、豆太にとってどんな木だったか、読んだ感想を伝え合おう。(1時間)

3 授業の見どころ

すらすら読む、言葉の意味を知る、話の大体が分かることなど、学習の基盤を整えた上で、学習目標をはっきりさせ、自らの考えをもち、話し合いに臨むことにより、多様な考えから概念(深い思考、多面的・多角的な見方・考え方の結果等で共有できる価値を有する知識)を導き出す学習を行う。

さらに、話し合いでつかんだ豆太の気持ちを音読で表現し、より感性的に捉えられるようにする。

4 本時の学習指導

(1) 目標

勇気を出して一人で医者様を呼びに行き、じさまの腹痛を治した豆太が、そのばん「じさまあ。」と小便にじさまを起こすのはどんな気持ちからなのか、自分の興味関心のある表現を関係付けて想像し、豆太のじさまへの思いについて理解を深める。

(2) 学習指導過程

学習活動と児童の意識	教師の指導
1 前時までの学習を振り返り、本時の学習問題を確認する。	○子ども主体の学習になるように、これまでの学習の振り返りや本時の学習の確認を子ども自ら行えるよう、学習係を設けたり、学習計画を立てたりしておく。
<p>学習問題 豆太はもう弱虫ではないのに、どんな気持ちで「じさまあ。」と、しょんべんにじさまを起こすのだろう。</p>	
2 家庭学習で自分が想像してきた豆太の気持ちを話し合う。 (1) 豆太の気持ちを話し合う。	○根拠をもって豆太の気持ちが想像できるように、選んだ表現と想像した気持ち等が書く家庭学習を設定する。  ○各自の興味・関心により表現を選んできているので、他の表現を選んでいる友だちと対話し、情報をつかむことを意欲づける。
(2) 豆太とじさまの関係から、豆太の複雑な気持ちについて想像する。	○第一場面の「豆太とじさまは、たった二人で暮らしている」と関係づけることによって、「豆太は、ずっとじさまと一緒にいたい」という継続している概念と成長して変わった豆太を共有する。
3 成長する前の「じさまあ。」と後の「じさまあ。」を声に出し、読み味わう。	○話し合いによってつかんだ豆太の気持ちから、実際に豆太がどんな風にじさまを読んだのか声に出して表現し、豆太の気持ちをより感性的に捉えられるようにする。
4 友だちと学んだことを振り返る。	○本時に獲得した大事な内容をチェックできる欄と友だちと学んだ学び方等を記述することで、表現の使い方等に注目する国語科の学び方や表現の定着、また友だちと学ぶ意義や自分の人間性を振り返り、学びに向かう意欲化を図る。